

本蘭ゴシックを使ってみませんか

本蘭ゴシック体の衝撃

(株)写研では、2000年に、本蘭ゴシックを発表しました。

まずは、出版・印刷関係各社にそのすばらしさを体感していただきたく、このような組見本を作ってみました。

写研の明朝体は1933年の石井中明朝(現在のMMANKL)、1955年の石井細明朝(現在のLMNKL)で手動機の時代から愛されつづけ、電算写植機時代に入った1975年に本蘭明朝Lが発表され、10年かけてファミリィ化されました。

本蘭明朝体は従来の石井明朝体に比べて、字面が若干大きめに設定されています。これは時代の要請といえるかもしれませんが、本蘭明朝体のファミリィ化によって、日本語組版の表現の幅が広がり、しだいに本文書体に本蘭明朝体が使われるようになりました。

それにもない、本蘭明朝体とバランスがとれた本文用ゴシック体を求める声がデザイ

写研の新しい編集機 Singis ではリアルフォントの状態
で画面表示しますから、真の WYSIWYG 編集が可能です。

ナーの方々から多く寄せられました。石井明朝系には石井ゴシック系が合うように、本蘭明朝体に合うゴシック体を作ってもらえないか——。構想から10年もの歳月をかけ、ようやく本蘭ゴシックがデビューすることになったのです。(以上本蘭ゴシックL)

ベタ組が本来美しい

ここで本蘭ゴシックを使ってみた感想を組版オペレータとしての立場で述べさせていた
だこうと思います。デザイナーや編集者のみなさま方とは違った考えになることは十分承
知していますので、くれぐれも以下の私感にあまり先入観を持たれずに、文字組版そのも
のを味わってくださいよう、お願いいたします。

本蘭明朝体は仮想ボディが石井明朝体に比べて大きく設計されています。したがって、
従来使われていたH詰めはせず、ベタ組がいちばん美しく、可読性に優れています。本
蘭明朝しも本蘭明朝Mも繊細でかつ、力強く、本文書体には最適の明朝体です。

石井ゴシック体は石井明朝体とのバランスは最適ですが、本蘭明朝体に合わせると若干
ホワイトスペースが目立つ嫌いがあります。このことに気づいているデザイナーや編集者
の方は心持ち大きい級数で詰め処理を指定したり、心持ち太めの書体(MGAKLよりは

2001

この見開き(2000~2001)に使われている書体
本文:本蘭ゴシックL(LHGA)後半MHGA
小見出し:本蘭ゴシックDB(DBHGA)
大見出し:本蘭ゴシックE(EHGA)
12級行送23H40字×15行(新書サイズを想定)

B G A K L など) を使うことによって本蘭明朝体とのバランスを取ってきました。

また、見出し用・広告用によく使われてきたゴナを本文用や小見出し用に使うと、明朝体と比べてやや主張が強くなる傾向にあり、さりげなく強調するという用途には若干向いていません。バランスの取り方が難しいため、指定がしづらい面もあるのではないのでしょうか。(以上本蘭ゴシック M = M H G A)

細部までよく見つけてください

今回発表された本蘭ゴシックは、そのような心配はいっさいなく、組み方向や詰め組みなど気にすることなく、ファミリー見本の印象とおりの組版を実現してくれます。本蘭明朝体のエレメントを継承してデザインされたフォントですから、パッと見て受け取る印象が本蘭明朝のそれを連想されてくれます。(L H M + D H G A)

仮名文字のやわらかさ、漢字の奥行きを本蘭明朝体や他のゴシック体と比べてみてください。本文用だけでなく、見出し用、リード用など、様々な使い方が見えてくると思います。主張しすぎず、埋没しすぎず、明解な存在感を残すゴシック体——これこそが新世紀のスタンダードゴシック、**本蘭ゴシック**なのです。(D H G A + E H G A)

現代の書体は縦・横・本文・見出しすべてに使えることが要求されます。本蘭ゴシックは本蘭明朝と同様、ふところの大きい書体なのでベタ組みが最も読みやすく、シャープで明快な印象を与え、しかも格調高い印象を感じさせてくれる書体です。

ご希望がありましたら、御社で出版された印刷物をテキストにし、本蘭ゴシックにて見開き2ページ分、組見本をお作りいたします。新しい本蘭ゴシックをはじめとして、より豊かな表現を可能にしてくれる写研の書体をあらためてご指定いただいた組見本を見たとき、しばらく忘れていた組版が持つ強烈なパワー（読者に与えるインパクト）をあらためて体験できることでしょう。（MHM）

この機会に本蘭ゴシックの美しさ、すばらしさを体感していただき、本蘭ゴシックをご指定されてみてはいかがでしょうか。その組版の美しさ、明解な存在感を他社にさががけてお見せすることこそ、御社の先見性を最終消費者である読者の方々への最大のアピールになるかと存じます。

ぜひともご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。（DBHGA）

平成13年11月吉日

株式会社 ステーションエス
有限会社 関根

「写研のシステムで今さら何ができるの？」とお思の方もいらっしゃるかと存じますが、Macintosh DTP となんら変わるものではありません。写研のシステムで培ったものと Macintosh DTP のワークフローを組み合わせ、面付け済みフィルム出力もしくはCTP用データ作成までおこなっています。Macの生産ラインよりも事故発生率は低く、生産性も高いとお客さまから評価を受けております。